

基本 目標

5

環境情報の収集・発信、環境学習・環境教育・環境行動の機会の提供と、人材育成や連携・支援のための仕組みづくりをすすめていきます。

個別目標 5-1

環境情報の収集・発信や催しの開催など、子どもから大人まで、様々な環境学習のできる機会や場を設けていきます。
〈環境教育・環境学習の推進と環境情報の収集・発信〉

市の取り組み

- ①環境教育・環境学習を推進します
- ②環境情報の収集と発信に取り組みます

市民の取り組み

- ・環境セミナーや環境観察会などに積極的に参加する。

事業者の取り組み

- ・社員研修の一環として地域の環境を学ぶ機会を作る。



ギフチョウ、モリアオガエルなど、天然記念物『黒岩山』の自然を観察するイベント「かえるの学校」

個別目標 5-2 子どもたちや親子での自然遊び、自然学習を促進する場と仕組みを作っていきます。〈自然学習の促進〉

市の取り組み

- ①自然学習の場の充実と創出に取り組みます
- ②学習体制を整備します

市民の取り組み

- ・家族で川遊びや里山散策などを楽しむ。
- ・公民館活動において、自然で遊んだり学習したりする機会を計画する。



子どもたちが川に入り、水生昆虫などの生き物を観察するイベント「せせらぎサイエンス」

個別目標 5-3

環境教育や環境行動を積極的にすすめるために、必要な人材育成や支援のための仕組みをつくっていきます。
〈人材育成・支援のための仕組みづくり〉

市の取り組み

- ①人材の育成を推進します
- ②環境行動への取り組みに対する支援を推進します

市民の取り組み

- ・環境や自然観察等の知識を学習して指導ボランティアに登録する。



個別目標 環境行動が持続的に行われていくために必要な連携・評価のため
5-4 の仕組みをつくっていきます。〈持続的な環境行動の促進〉

市の取り組み

- ①連携のとれた体制づくりに取り組みます ②環境評価の実施に取り組みます

個別目標 環境を考え行動する市民会議を設立し、環境問題に関する学習
5-5 や調査・評価を行い、環境への関心と行動を高めていきます。
 〈環境を考え行動する市民会議の設立〉

市の取り組み

- ①環境を考え行動する市民会議を設立します
 ②市民会議と連携する体制づくりに取り組みます

環境キーワード「酸性雨の防止」

酸性雨とは、硫黄を含む化石燃料（石油や石炭）を燃焼させることにより、硫黄酸化物や窒素酸化物が大気中に放出され、大気中で硫酸や硝酸などに变化した後、雨・雪・霧などに溶け込んで降ってくる現象です。

酸性雨は、一般的にpH5.6以下のものとされていますが、湖水はpH5.5まで下がると魚が死滅し、森林ではpH3.0以下の酸性雨が降り注ぐと、可視的障害や成長抑制をもたらすことが実験によってわかっています。

原因となる物質が放出されてから酸性雨として降ってくるまでに、国境を越えて数百から数千kmも運ばれることもあり、その動向を監視するため国際的に協力して世界各国で様々な観測・分析が行われています。アジアでは、「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）」の下で、酸性雨モニタリングを共通の手法で行うための取り組みが進められています。



私たちは、まずは問題に対する関心を持ち、酸性雨の原因となる化石燃料をなるべく使わないで済むよう心がけて生活をするのが大切です。例えば、自動車を使う機会をなるべく減らす、エアコンの使用時間を減らしたりクールビズ・ウォームビズに参加したりして節電に努める、などが考えられます。一人ひとりの取り組みは小さいかもしれませんが、100人、1000人と取り組みを広げ、大きな力にしていきたいと思います。